

第21号



罹災による拠点再建に向けてのご支援ありがとうございます！

理事長 西田 良枝

3月11日の震災による液状化で、「とも」の拠点であった事務所と相談室、ケアルームが一体となった建物が全壊となってしまったことに対して、全国にいらっしゃるこの通信を読んでもらった方、ご利用者さんやご家族をはじめ「とも」にかかわってくださる方々、地域の方々など多くの皆様から拠点再建に向けてのご寄付をいただきました。

「ちょっとでもいいのかな…？」と心配そうに事務所に義捐金をご持参して下さった障がいを持つ利用者さんたちの姿をはじめ、皆様からのあたたかいご支援にどれだけ励まされたかわかりません。心よりお礼申し上げます。

震災直後は、NPO法人タオさんの事務所を間借りさせてもらいながら、次の仮事務所を探しましたが、市内は液状化で被害を受けているところが多く、なかなか物件が見つかりませんでした。また、せっかく見つかったも、契約直前で液状化しているので貸すことができないと断られるなどもあり、落ち着かない毎日を過ごしました。

とりあえずの荷物以外は、トランクルームに預け、必要最低限のもので日常を過ごしています。それでも24時間365日のケアは続けました。しかし、自分のデスクもロッカーもない状態で仕事を続ける職員たち。このままではケアを担う職員も事務職員も参ってしまうと考え、やむを得ず「地域活動支援センターとも」の今川センターとして借りていた建物に事務所の一部を移し、NPO法人タオさんの倉庫をお借りし、仮設会議室、相談室に改修させてもらい、地域活動支援センターともは行政に場所をお借りし移転して、なんとか職員の居場所を確保できる形になりました。

結果、地域活動支援センターともに移転により、利用者さんの居場所を変えなくてはならないこととなり、本当に申し訳ない思いです。それでも、仲間がいれば大丈夫と利用者さんは新しい仮の居場所を受け入れ通ってきてくれています。

罹災した拠点の建物は、7月の中旬にはすべて壊され更地になりました。みんなでやっとなつてきた拠点、利用者さんや職員との思い出がいっぱい詰まった建物。建物が壊されていく様子を見るのは何とも言えない悲しい気持ちで、罹災したことの実感と事の大きさを改めて突きつけられた思いでした。

けれども、ここからが本当の復興です。今後は、地盤改良など多くの課題が残っていますが、皆様からいただいた大きな励ましを力に、新しい拠点の再建に向けて進んでいきたいと思っています。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いします。

震災後のともの歩み

東日本大震災後、事務所が倒壊の危機に陥り、事務所の場所を確保するため引越しにつぐ引越しをしながら支援を続けた様子や、建物の建て直し交渉から解体などの経緯をまとめました。



▲ 3/12：旧事務所全景



▲ 6/30：解体開始



▲ 7/6：壁面撤去のため養生



▲ 7/6：鉄骨だけの姿に...



▲ 7/11：ついに解体され、跡形もなくなりました

ライフラインが途切れた状態で...

1ヶ月あまり
通った
仮設トイレ



掃除、手洗い用の水を
毎日汲みに行きました



粉塵の舞う中、ヘルパー
さんは自転車に乗って
ケアに...



寄付金のお願い

引き続きご支援をお願いいたします。

- 寄付金振込先 -

京葉銀行 新浦安支店 普通口座 5429332
口座名義：社会福祉法人
パーソナル・アシスタンスとも
理事長 西田良枝

＜パーソナル・アシスタンス とも＞震災後の経緯

日付	建物 / 活動内容	サービス
3/11	<ul style="list-style-type: none"> ＜午後2時46分＞東北地方太平洋沖地震発生 上下水道使えず 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間安心訪問ヘルプサービスの拠点を一時ケアセンターに移す。 利用者安否確認実施 一時ケアセンターを災害時緊急宿泊施設として運営。帰宅困難障がい者等の宿泊対応を行う
3/12		全非常動に安否確認電話
3/13	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人タオの事務所を間借りして引越し JR委託事業者による建物診断→危険と診断される 	
3/14	<ul style="list-style-type: none"> JRによる建物診断→倒壊の危険ありと診断される 今後についてJR都市開発に連絡 	ガソリン不足により車から自転車へ移動手段を切り替える
3/15	<ul style="list-style-type: none"> 電話・メールの復旧の目処立たず ケアルームトイレ汚水逆流 床上浸水、汚染 	
3/17	<ul style="list-style-type: none"> ＜午後2時44分頃～7時10分頃＞浦安市初の計画停電 	<ul style="list-style-type: none"> 斎場一日火葬5件のみ実施 飲料の飲み残しは持ち帰り
3/18	<ul style="list-style-type: none"> ＜午後7時10分頃～8時40分頃＞浦安市二回目の計画停電 	
3/20		一時ケアセンターを身障者の入浴施設として活用
3/23	<ul style="list-style-type: none"> ＜午後7時00分頃～8時30分頃＞浦安市三回目の計画停電 産業医による被害状況確認 	
3/24	<ul style="list-style-type: none"> 職員に水分補給、外出時のマスク・ゴーグル着用などを指示 	<ul style="list-style-type: none"> ゆうあい駅前センターの活動再開

24時間365日体制で行っている事業は震災があっても途切れることなく実施

日付	建物 / 活動内容	サービス
3/25	<ul style="list-style-type: none"> JRから「天災の場合は建物が倒壊した時点で契約終了」と連絡有り 建物ゆがみ進行、屋根亀裂発生 雨水侵入、電気系統断絶 罹災都市借家処理法に基づき JRへの再建申し入れ 千葉県と浦安市に災害報告書提出 	<ul style="list-style-type: none"> ゆうあい今川センターの活動再開
3/27	電話移設工事	
3/29		斎場、通夜ができるようになる
4/1		生活塾、場所と時間を変更して再開
4/2	新しく入居予定の建物が、液状化による建物傾斜を理由に借し止めになる	クレヨン教室、場所を変更して再開
4/6	上水復旧	駅前ほっぷ、リサイクルショップ再開
4/9	事務所を今川地活へ移す	
4/12	今川4丁目(事務所)下水復旧	音楽療法再開
4/14	罹災職員のメンタルケア(睡眠確認など)	
4/16	NPO法人タオの倉庫を借り上げて会議棟に改修	
4/18	斎場の上下水道復旧	ムーブメント療育再開
5/5	ほっぷの下水管新設	斎場、障がい者採用の職員が職場復帰
5/12		駅前ほっぷ、居酒屋再開
5/30		造形教室再開
6/1	旧事務所「半壊」認定を受ける	
6/5		療育・手作りパン教室再開
6/6		卓球教室再開
6/11		イルカスイミングクラブ再開
6/20	JRIに旧事務所の鍵を返却	
6/23		今川センター、ゆうあいへ引越し
6/30	旧事務所の解体開始	

おかげさまで 10 周年を迎えることができました



創立 10 周年を迎えて

震災で法人の拠点を失った約2か月後の今年5月1日、「とも」は創立10周年を迎えることができました。「とも」がこの日を迎えることができたのは、支援を必要とする当事者の方たちやそのご家族をはじめ、「とも」の理念に賛同してくださる後援会、行政、ボランティア、企業、政治家など様々な立場の方々、同じ市民として「とも」の取り組みを応援してくださっているの方々、福祉や医療、教育など関係機関の方々、「とも」の事業を外部から支援してくださっている専門職の方々、そして「とも」の理事・評議員、実践部隊である職員等々、ほんとうにたくさんの方々に支えられてきたからと思っています。法人を代表してそのすべての方々にここから感謝申し上げます。

「とも」は法人格になって10周年ですが、「とも」には前身の「浦安共に歩む会」としての8年間があり、それらを含め20年近くの活動があつての「今」であると思っています。「障がいがある人もない人も、誰もが、自分らしく、地域の中でともにしあわせに生きることができる社会であってほしい」という願いは、「とも」に引き継がれており、その願いの実現に向けての手段は市民活動という形から、必要な事業やサービスを展開していくという形へと、変化はしましたが、願いの実現という目的は20年前から変わらず存在しています。



とも 18 年のあゆみ（記念誌より抜粋）

これまでの10年は、NPO法人として、マンションの 一室から始まり、机から電話、コップにいたるまで、皆様からいただくか、粗大ごみ置き場からひろって来るところから始まりました。介護保険制度が始まったばかり、障害福祉はまだ、措置の時代でした。今はないけれど、地域でともに生きるために必要なことを自分たちでつくろう！と地域での暮らしには不可欠な24時間365日の支援と、必要なら誰にでも利用できるユニバーサルな支援の仕組みをつくり、細々とではありましたが、実践を始めました。現在は社会福祉法人となり16の事業を行うこととなっています。

長年の念願だった本の出版

私たちの出発点は、障がいを持つ人との出会いから始まりました。一人の「支援が必要な状態の人」と出会うことによって、出会った私たちひとりひとりが、「誰もが暮らしやすいとはどのようなことなのか？」と考え、つながり、行動することになったのです。

人は、人生の営みの中で避けようもなく障がいをもつことになり、人の助けを借りなければ生きていけない、弱く困難な状態に置かれます。でも、弱さと思われていることが、本当は人と人をつなげ、地域を変えていく強い力の源になっているのではないかと感じています。

そのようなことを含めて「とも」の成り立ちや、現在の姿を書いたものが、約6年あまりの歳月を経て、今回、出版によりやくこぎつけることができた『ひとりから始まるみんなのこと〈パーソナル・アシスタンスともの実践〉』という本です。この本もまた、「とも」の事業と同様、「ともに生きる社会の実現」に向けての役割を果たすことができれば、と願っています。

創立 10 周年・出版記念の集いの開催

震災前に予定していた 10 周年記念の集いを執り行えるのか…。

「とも」の拠点がなく、転々と仮の拠点を引っ越しながらいることで、準備もできるかどうか、先が読めないこともありました。それに、再建に向けて皆さんへの支援を求めている私たちが、感謝の集いとはいえお招きする側に回っていいのか…。

それと並んで、市内の状況もそうですが、全国にお招きしたい方々がいらっしゃる中で、行ってあげたい気持ちを持ってくださっても、来ることができない地域の方や、罹災して多くの方が悲惨な状況にいるなかで、ぎりぎりまで決断することができませんでした。

けれども、「浦安共に歩む会」を含めると約 20 年近く、皆さまからいただいた、励まし、共感、ご支援は、計り知れない力を私たちに与えてくださいました。それに対するお礼を欠くことはできないし、私たちも、こんな時期だからこそ、「新たな連帯」を持って進むきっかけがほしい、と考え、この集いを行うことを決めました。

創立 10 周年と出版記念の集いは、総勢 342 人の方にご出席いただきました。遠くからお越しいただいた方たちや久しぶりにお目にかかる方、長年ずっと見守ってくださったのだと、お一人おひとりに感謝の気持ちでいっぱいでした。

いつも全速力で走り続けてきたことは事実ですが、それを支えてくださっている多くの方々に対してもなかなかお礼を申し上げる機会も作れず、少なからず、そんな状況に落ち込む日もありました。

けれども、「とも」を応援してくださる多くの皆様は、失礼を続けてきたことをも受け入れ、この 10 周年を喜んでくださっていると感ずることができ、お目にかかれたことで、また大きな力をいただいた思いです。

同じように、私たちに力をくれるのは、利用者さんたちです。集いの前からその日を楽しみにしてくださり、準備にわくわくしたり、会場では「今まで生きてきた中で一番楽しかった日です」「こんなおいしいお料理初めて食べました」などうれしそうに語ってくれたり、その後も 1 週間くらいはずっと集いの話でもちきりだったそうです。

いろいろな社会的な場面があり、人とのつながりを実感できる機会は、誰にとっても喜びにつながるのかなのだと思いますし、主催者としてほんとうにうれしい気持ちになりました。

当日は、「まさに地域だね。あんなに多様な人たちが来てくださるなんて…」と言っていただけのほど、様々な立場の方がご出席くださり、ドキュメンタリー映画監督の寺田靖範さんに制作をお願いした「とも」の紹介映像「ともに生きる」を上映したことで「とも」の取り組みについて共感やご理解、ご意見をいただくこともできました。

これからも、私たち、パーソナル・アシスタンスともは、ともに生きる社会の実現に向かって、邁進していきたいと思っています。今まで以上のご支援をお願い申し上げます。

すべての人が
ともに生きる社会を作りたい

年齢や障害の有無に関わらず、だれもが“普通の暮らし”をしていく。そのための支援を 24 時間・365 日する社会福祉法人が千葉県浦安市にあります。

地域で共に生きていくために、コミュニケーションとして何ができるのか？ 著者の重度障害をもつ娘の母親としての思いを出发点に、当事者だからこそのわかるニーズを、すべての人に役立つ仕組みへとつなげてきた活動の記録です。(太郎次郎社エディタスホームページより)

本書は、発行元の太郎次郎社エディタスホームページやアマゾンで注文できます。もちろん「とも」に直接注文していただくことも可能です。「とも」に注文していただく送料が無料になります。詳細はお問い合わせください。

Fax 047-304-8821
Tel 047-304-8808



『ひとりから始まるみんなのこと 〈パーソナル・アシスタンスともの実践〉』
西田良枝／著
太郎次郎社エディタス ¥1995

創 立 10 週 年 &



理事がお客様を出迎えます

2011.6.17 社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとの創立 10 周年の集いが浦安ブライトンホテルで行われ、総勢 342 名の方にご出席いただきました。

理事長挨拶



10 周年記念映像『ともに生きる』

日本映画監督協会新人賞を受賞された寺田靖範監督の指揮のもと、カメラマンの水戸孝造さんがカメラをビデオに持ち替え、ともの事業や活動を撮影してくださりました。

ビデオは、どうして"とも"ができたかを当事者の視点から描き、過去から現在までの歴史や"とも"の理念がわかる内容になっています。根底に流れるのは、「全ての人々が地域の中で一緒に、楽しく生きる」ことができる社会にしたいという想いです。この映像を通して多くの人と共有できたら・・・と思います。



寺田監督



司会の八塚さん



ご来賓のスピーチ



明海大学経済学部長
下田先生



参議院議員
衛藤先生



松崎市長

乾杯



ご発声を頂いた
商工会議所
柳内会頭



お食事&歓談



浦安市議会議員の方たち

ビデオメッセージ



NHK 教育 TV「きらっといきる」
に出演の T さん、M さん

レターメッセージ



慶応大学教授・元宮城県知事
浅野史郎さん

利用者さんスピーチ



※利用者さんのスピーチは次ページで全文紹介させていただきます。



太郎次郎社エディタスの K さん
東松山市社会福祉協議会の S さん

『ひとりから始まるみんなのこと
＜パーソナル・アシスタンスともの実践＞』の紹介

**原点は娘の障害 法人設立
24時間ケア10年の軌跡**

子育て支援から障害児や高齢者の介護まで、24時間365日、女江里さんは脳障害があり、食生活を支える。そんなサビ、女江里さんなどは介護が必要。社会福祉法人「パーソナル・アシスタンス」とも（千葉県船橋市）が10周年を迎え、理事長の西田良枝さんが51歳で歩み振り返る著書を出した。

タイトルは「地域生活支援ひとりの軌跡」。

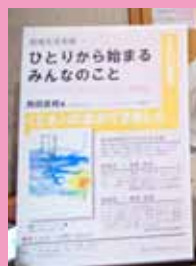
「ひとりから始まるみんなのこと」とも（パーソナル・アシスタンス）との共著。太郎次郎社エディタスの K さん、東松山市社会福祉協議会の S さんとの共著。2000年、必要だと感じていた支援を自分たちでつくりだした。NPO法人「こころ」を設立。08年には社会福祉法人になった。江里さんは現在、法人代表者として働く。

東日本大震災では、被災地におけるケアのニーズを把握し、被災地での活動。関係者とのつながりも、24時間サポートは守り抜いた。「スタッフが誰ならケアはできる」「西田さん」とも（西田良枝）の軌跡は続いている。

出版した本と、ともの取り組みが
7/14の朝日新聞に紹介されました



みんなで本の販売を行います



広報ポスター



中締め



NPO 法人タオ理事長

お見送り



おみやげ



10周年記念誌
『ともの本』

創立 10 周年の節目に記念誌『ともの本』を発行しました。

18 年の歴史や事業紹介を初め、利用者さんにいただいた貴重な原稿や支えてくださる方の原稿も掲載され、「ともの」ことがよくわかります。利用者さんのアートのページやスタッフ紹介のページは見て楽しく、盛りだくさんな内容になりました！



利用者さんの声

出 版 記 念 の 集 い

利用者さんのスピーチ原稿

10周年記念式典でスピーチしていただいた利用者さんの原稿です。

M・M
さん
(地活利用)

10周年おめでとうございます。私はM・Mです。私がともと出会ってから、5年になります。

相談員さんから今川センターを紹介されて行き始めました。今川センターを利用する前は、友だちもいなくて毎日つまらなかったけれど、今川センターに行くようになって、友だちがいっぱいできました。たくさんの友だちがいることが、嬉しいです。楽しいこともたくさんできました。市民祭りや花火大会などのお祭りに行ったり、わいわい会のお出かけでは、バスガイドにも挑戦しました。今川センターに行かなかったら、できなかったと思います。これまで出来なかったことができて、本当に嬉しいです。

私は、会社で仕事がしたくて、ほっぷで仕事の訓練をしていました。ほっぷでは働きやすいように、職員さんが工夫をしてくれたのが嬉しかったです。漢字が読めなかったので、ひらがなにしてくれました。また、お客様に丁寧な言葉づかいで話すのが難しくて、困っていたら、貼紙を貼ってくれて、どう言えばいいのかわかりやすくなりました。ほっぷでは、お客様が「来てよかったな」と思ってもらえるように、丁寧な言葉づかいをすることと、笑顔を忘れないことを心がけました。お客様に「頑張ってください」と言われたときは嬉しかったです。

今はほっぷを卒業し、会社で働いています。1年半かかりましたが、くじけずにほっぷを続けて、やっと就職が決まりました。今の目標は、会社で長く働くことです。皆と一緒に力を合わせて頑張っていきたいと思います。



T・S
さん
(生活支援事業所利用)

「とも」との出会いは、平成15年6月。友人が、船橋の介護団体に相談したところ「浦安では、西田さんがやっている「とも」が良い」と聞いて、私のことを相談していました。

当時、私はアル中で、水のごとくビールを飲み、毎日ワイン2本を飲んで、幻覚や幻聴が現れ、3、4か月に1度は入院する生活でした。

ある日、友人が全身硬直して、倒れている私に気づいて、「とも」に緊急連絡をしました。「とも」のヘルパーさんの付き添いの元、救急車で急遽、入院となりました。入院しても、家族や友人がお見舞いに来てくれるわけでもない私にとって、週に1度、「とも」の相談員さんが自宅に届いた郵便物を届けてくれたときに、一緒に話すことが何よりの楽しみでした。

私は次第に歩けなくなり、ヘルパーさんに来てもらう回数も、週2回の家事援助から1年365日、全面的に「とも」のヘルパーさんに来てもらうことになりました。

亜急性脊髄連合変性症という病気を抱えている私ですが、他の病気も疑っていました。東京臨界病院に入院し、再検査した結果、アルコール依存症の診断を受けました。

入院している間はお酒は飲みません。体が良くなってくる実感がありました。でも、飲みたいという気持ちを退院しても抑える事ができず、「とも」との戦いが始まりました。うしろめたい気持ちで購入したお酒を必死で隠しました。今でも不思議に思うのですが、ヘルパーさんたちは全て見事に見つけました。そんな戦いが半年ぐらい続き、結局、その戦いに敗れた私はお酒をやめ、今では本当によかったと思っています。

褥瘡との戦いもあり、1日、7回、深夜、早朝問わず、体位交換のためにヘルパーさんが来ていました。もう3年ぐらい、褥瘡は無く入院もしていません。

私にとって、「とも」は、あって当たり前、なけりゃ死んじゃう存在で、ヘルパーさんは私の体を、相談員さんは私の心を見守ってくれています。

浦安で一人で暮らす私を全身で支えてくれる複数の人たち・・・それが「とも」です。

10周年、おめでとうございます。これからも、私の命が尽きるまで、変わらぬ「とも」であってほしいと願っています。御清聴、ありがとうございました。



第2回アウトサイダーアート展

2011/2/15 ~ 2/20 at アトレ新浦安 1F ガーデンテラス

たまたま通りかかって、
面白いな~と思って立ち
止まりました。

もっとたくさんの
ものがみたいです。

5才の娘と楽しく拝見しました。
施設の利用はありませんが、毎日登
園の途中でおそうじに励んでいる画
家さんを見かけていて、ぜひ今回の
アート展は娘に見せたいと思い
立寄りました。

2/15 ~ 2/20 にアトレ新浦安で「第2回アウ
トサイダーアート展」を開催しました。
地域活動支援センターともで活動する方たちの
作品を約 30 点展示し、たくさんの地域の方に
見ていただきました。200 名以上の方に書いて
いただいたアンケートの中から、一部を紹介さ
せていただきます。



元気がなかったのに、
力をもらえました。

まっすぐな気持ち
が感じられて、
心が動きました



すべての作品に一生
懸命があらわれていて、
こちらに伝わってくるもの
があり、来て良かったし
また来たいです。

障害あるなしに関係なく「作
品」として素晴らしい！型
に捉われない発想、姿勢が
真のアートだと感じました。

自分じゃこの組み合わせの色は
使わないだろうなというよう
な色遣いをみて、自由を感じた。

障害をもっている、自由の権利はもって
いるし個性もある。もっとあたたかい目
で人と接することが求められていると感じた。
将来に生かせる良い経験になりました。

絵手紙だけではなく、
言葉がそえられて
あったので、すごく良かっ
たし、ちょっとジーンとく
るものがありました。



前回は、今回も観ることが
できて楽しかったです。
心にスーッと入ってくる
感じで、どの作品も
すばらしいです。

はじめに「さくらさ
りました」の絵が目にとまり、
障害者と知り感動しました。

地域でこんな活動を
されていると知り、
よかったです。

前回よりもさらに、
コラージュ作品とかが
増えて楽しめました。
また楽しみにしています。



- ①『54』②『さんぽ』③『僕の生き方 ギリギリの精神』④『釣り』⑤『さくら』⑥『太陽の国の光の顔と闇の顔』⑦『今の自分自身の絵』
⑧『さくらさりました』⑨『裸の美女』⑩『とんぼ』⑪『浜崎あゆみのコンサート』

浦安市地域自立支援協議会 活動報告

浦安市地域自立支援協議会 22 年度活動報告

22 年度の浦安市地域自立支援協議会では、相談事例から見た「ひとりのニーズ」が原点となり、協議会での議論を通じて、普遍的に地域に還元される政策づくり、制度づくりへ繋がっていきました。グループホーム等整備事業費補助金事業も就労訓練体験制度も、一人の困りごとの事例から、誰にも還元される仕組みにすべく、協議会の委員の皆さんにご議論して頂きました。

具体的に言うと、幹事会では、重度の障がいがある、ケアホームの整備を待ちわびながら市外の施設で暮らす方の事例を通して、グループホーム等整備事業費補助金事業が確立されました。就労支援プロジェクトでは、最重度の障がいがあっても働きたいと願い、個別支援の元、就労訓練を続け、仕事を通じて地域との繋がりができた当事者の就労ニーズから、個別の支援が必須となっている就労訓練体験制度が構築されました。

特別支援教育プロジェクトでは、保護者へのヒヤリングを行った際、ひとりの保護者から寄せられた声が、個別相談として総合相談につながり、プロジェクトで培われた地域連携によって、不登校になっていたながらも卒業式に参加することを希望していた児童が学校、まなびサポート、総合相談、保護者の連携の元、安心して卒業式に参加し、巣立ちの日を迎えることが出来ました。

事業者支援・制度プロジェクトでは、浦安版就職フェアを開催。常勤 5 名、非常勤 3 名の採用となり、他市の就職フェアと比べても採用実績としては大成功の結果となり、啓発・広報プロジェクトでは、サポートブック作成に向けての取り組みに着手したなど、活発な活動を展開した地域自立支援協議会でした。

その他、東野地区再整備計画について市長へ提言書を提出し、障がい者福祉計画のアンケート内容に対する提言なども行いました。

地域自立支援協議会では、ひとりの相談事例から地域ニーズを拾い、地域に還元できる普遍的な政策づくりに活かすことが求められています。また、官民一体となって、ひとりのニーズ、困りごとに真摯に向き合い解決していく姿を地域に浸透させていくために中心的な役割を担うことが期待されています。

22 年度の協議会は、まさに、一人のニーズが原点となり、政策づくりにつながったと言えます。その流れは相談支援事業と行政が事務局機能を一緒に担う事で強化されたと感じた 22 年度でした。

【浦安市障がい児・者総合相談センター 矢富】

ともの今日

日本財団より送迎車両を 寄贈していただきました



複数の拠点で業務を遂行する障害のある職員や地域活動支援センターの利用者が、より効果的な当事者活動と事業展開を図ることを目的に、平成 22 年度の日本財団福祉車両整備事業で、送迎車両としてニッサンのセレナを整備しました。

当事者が住みなれた街の中で活躍し、生活する姿を見せることで、市民の中にも「みんなで一緒に暮せる街」という感覚が広がることを願っています。



〈編集後記〉とも初の出版本『ひとりから始まるみんなのこと』は絶賛発売中です。チラシをごらんになり、お問い合わせください。【M】